

適切な価格で買い取って貰う。そのためにはセンターを国立にすべきである。雨後の筍のようにできる美術館たった一個を新築すると考えれば、実現は困難ではない。ただし、これらの事業に対する、識者と一般人の理解と価値観の是正がまず先決問題である。

7 資料集めおよびその保存に関する意見

岡 田 靖 雄

この問題についてはすでに「資料の保存について—あるいはゴミ集めの弁—」(精神医学史研究、第一号、一九九八年)を記しております(自分のあつめているものが「史料」という重さをもっているかどうかには自信なく、「資料」とします)。あくが個人として、また研究会であつめた資料をこのあとどうすればよいか、この一五年ぐらいいおもしろいやらやりました。皆様ご経験のように、医学部図書館ではふるい本はあたらしい雑誌におされて放置され、大事な本もまま廃棄されます。呉秀三・榎田五郎『精神病者私宅監置ノ実況』(一九一

八年の内務省本は発行一〇〇部だけで、関係者にとってはいわば聖書です。これが東京大学医学図書館の病院未整理図書に四冊かあつて、よほどもちだそうとおもったがその勇気がありませんでした。ところが、整理されてみると本当に整理されちゃつて、のこっていないんです。自分があつめたものについては、それをつかった仕事をするのが第一ですが、そのものを子どもにのこしても、かさばつて邪魔なゴミとなるだけです。ここはやはり、公的な医学資料館ができてそこに寄託できるようにあればありがたいことです。

雑誌についていいますと、表紙や広告もふくめて全形そのまま保存していただきたい。日本精神神経学会の前身日本神経学会の機関紙『神経学雑誌』の創刊はいつか。製本されたその第一巻を何冊かみましたし、第一巻をもっている人に問い合わせもしましたが、わからないんです。ところが、当会の会員小峯和茂さんの小峰研究所に創刊号がバラで所蔵されていて、明治三五年四月一日とわかりました。表紙の右肩にそれは印刷されていました。製本のときに表紙はみならずされているんですね。またいま、日本医史学会ができるまでの経過をしらべています。医史学会の前身私立奨進医学会が発行していた雑誌に『刀圭新報』があり、

山崎文庫にもこれはいっています。山崎先生は裏表紙をすてていますので、編集者、発行者がだれであつたかわからぬ部分があります。

それを発行していた学校の図書館にもその雑誌がそろっていないものがあります。ある雑誌の全巻にあたるには、いくつかの図書館をまわらなくてはなりません。ここは図書館同士が協定して、どこではどの雑誌を全巻そろえている、というようにしていただけると便利です。

精神科ではとくに社会史、事件史が大事で、新聞や週刊誌といった資料も重要です。新聞も一週間たつてある記事をさがすとすると、たいへん苦労します。情報がおおすぎる情報化社会では、今についての資料は今自分で整理していかなくてはなりません。情報化社会ではまた、声のおおきい人が情報媒体を占拠して、ちいさな声をかきつけてしまっています。ぼくが参加してきた出来事についても、声のおおきい人が自分に都合のいいことをいって歴史をゆがめています。のこされている歴史には、きりすてられている部分がおおすぎるにちがいない、というのが実感です。それだけに、ぼくが心がけているのは、ちいさな運動体の機関誌をできるだけあつめておくこと、また自分の見聞を記録しておくことです。今の記録といつても、すこしすれば歴

史です。こういった、今の記録の方法の体系化も重要な課題であります。

8 眼科医療器械保存の CD-ROM 化

奥 沢 康 正

日眼一〇〇周年を期に、各大学眼科教室の器械保存の調査が実施され、東京、千葉、金沢大学眼科教室を除き、大では殆ど保存されていない現状が明らかになった。日本で最も多くの機械類を保存管理しているのは、いずれも江戸期から続く医家である千葉県の千葉彌幸氏、長野県の野中杏一郎氏、それに筆者の三医療機関であつた。筆者は二〇数年来、眼科医療器械を蒐集、保存してきたが、既に骨董価値がある高額な江戸期のものは敬遠し、医療器械店及び廃院となつた眼科医院から処分される器械を無差別に譲り受けた。さらに関西の四大学の眼科教室で処分される多くの器械を拝受した。こうしてできあがつたコレクションであるが、保存に関しては、様々な問題が起こってくる。普及しなかつた個人の考案品や、実験研究用の試作、改造